

江差港が「釣り文化振興モデル港」に指定されました ～指定証交付式の開催～

江差町まちづくり推進課

令和6年8月7日、江差港が「釣り文化振興モデル港」(※)に指定され、10月30日に指定証の交付式を江差町役場にて開催しました。

交付式では、稲田雅裕国土交通省港湾局長の代理として、佐々木純国土交通省北海道開発局港湾空港部長から照井誉之介江差町長へ指定証が交付されました。照井町長は、「モデル港の指定を受け、釣りによる事故やトラブルの防止、そして交流人口の増加による地域の活性化につながることを期待したい。」と述べました。

本港では、かもめ島の自然を活かしたキャンプ・グランピングや「海釣り」や「磯遊び」等の海洋レクリエーションを推進しております。海のルールとマナーの周知や安全・安心の釣り場環境の整備が求められており、西防波堤を釣り場の候補地として検討を行っています。

令和6年6月には実釣試験を実施し、クロソイやマガレイ等全19匹の釣果がありました。

「釣り文化」の拡大とともに地域の活性化に繋げ、「海とまちをつなぐまちづくり」を実現させるため、設立を予定している「(仮称)江差港みなとまちづくり協議会」において、安全対策・マナー向上などの管理面の検討

を進めるとともに、釣り教室等を開催し、開放に向けて取組みを進めて参ります。



釣り文化振興モデル港指定証交付式

※国土交通省港湾局は、観光資源としての港湾における釣り施設や既存の防波堤等の利活用を進めており、地域の関係者による地方創生を目的とした釣り文化振興の取組が進められている港湾を「モデル港」として募集し、「釣り文化振興モデル港」として指定しています。



釣り場解放地区(候補地)